
仮面ライダー ローズ

高浜ゆりえ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダー ローズ

【Zコード】

Z2828B

【作者名】

高浜ゆりえ

【あらすじ】

私立マスクド女学院は百年の歴史を誇る日本有数の女学院である！特徴は（スール）システム、これは上級生と下級生が契りを結び、生活や学習の指導をするというものである。そんなマスクド女学院に迫る異形の化け物を倒すために！今、仮面ライダーローズが立つ！！

第一部 お嬢様がみてる（前書き）

全部で四部ぐらこの短い構成になると想いますが、かなりチラシの裏
な内容かもしません…

第一部 お嬢様がみてる

私立マスクド女学院は百年の歴史を誇る日本有数の女学院である…！特徴は（スール）システム、これは上級生と下級生が契りを結び、生活や学習の指導をするといつものである。

（そんな…嘘でしょ？…）

それは、桜が舞い散る春の入学式の終盤近くの出来事であった。

「では、スール同士は挨拶をして下さい」

スピーカーによつて拡張された先生の声が桜が舞い散る中庭に響く。中庭はとても広く、普通の中学校の校庭^{2つぶんほど}あり、芝の大**地**に、池や桜の木、そして風車などが設置されていた。

元々普通の家庭で普通に育つた彼女にとって、それは衝撃的でもあり、同時にフレッシュヤーでもあった。

「私があなたのスールの冥王寺 由良です… よろしくお願ひね」

微笑む三年生…^{めいこうじ}冥王寺 ^{ゆう}由良の指によつて、少しだけスカートの長い新しい制服の胸ポケットに、赤い真っ赤なバラが添えられる。

「わっ！私はっ！えと…」

胸ポケットにバラを添えられた新入生の少女はショートヘアを靡かせて頭を横に振る。

あまりの緊張のしているために、声が出なかつた。

「緊張しなくてもいいのよ、大丈夫だから」

そんな少女に三年生の由良は優しく微笑む。

そして、戸惑う顔へと指を伸ばした。

（くつ？！）

自らの顔へと迫る餅のように艶やかな指を前に、少女は完全に思考が停止した。

「朝野 霊さん、よろしくね」

少女… 朝野 霊の鼻に付いていた桜の花びらをつまんだ由良は、まるで聖母のような神々しさを放つ。

「いいなあ…あの一年生」

「由良様が…私達の由良様があ…」

「私達ファンクラブは…負けないわー耐えるのよ」

そんな由良のファンクラブの生徒達が遠巻きに一人を見つめる。

冥王寺 由良はマスクド女学院高等部三年生にして、才色兼備の美人である。しかも、代々続く冥王寺家の令嬢ときたもんだ。

そんな冥王寺には熱烈な信者も多く、ファンクラブは自然と存在している。

「では、このは新入生歓迎会を行います、第一体育館に移動してください」

スピーカーで拡張された声が、ぽけーっと夢見心地であつた雲を現実に引き戻す。

「じゃあ、行きましょう『雲さん』

由良はそんな雲を見つめてクスリと笑い、歩き出した。はしたなくない速さで、且つしなやかに。

まるで、真紅の薔薇のように――

「はっ…はい…」

微笑む由良と、緊張する雲。

そんな感じで、私立マスクド女学院の入学式は華やかに終了し、新入生歓迎会が行われようとしていた。

続く新入生歓迎会が始まろうとしていた…

時を同じくして――

私立マスクド女学院の約20キロメートル敷地内の最奥での、教会の中。

その巨大な教会の中で、一人のシスターが恐怖に震える。

「かつ…神よ…！」

晴天のはずであった、しかし教会の中は闇に包まれている。闇の中で、凶器のように鋭い赤い瞳が煌めき、舌なめずりをする音が響く。

『ギュアアイアアアアアツ！…！』

異形の化け物が、十字架を背にしたシスターを睨みつけて唸りをあげる。

人の形に近しいその化け物は頭に触角のようなものが生えており、体中は紫色の鱗で覆われている。

そして、その化け物はベトベトとした粘液が滴る右腕を振り上げた。鋭い爪が、闇の中で白く輝く――

「そこまでよ…！」

一喝――

現れたのは、神ではなかつた。バタンという音とともに、巨大な教会の中の扉が開かれる。

「あつ…あなたは…」

恐れおののいていたシスターが涙目まま振り向く。

『グガ…ダレダ… ギザマハ！…』

異形の化け物は、人の言葉を発して瞳を見開く。

舞い散る春の桜を背に、人の形をしたシリエットが、闇に包まれた教会の中へと歩いてくる。

「… 全ての命を守るため…！」

騒然とした教会の中に、シルエットが発したと思われる声が響く。

「… 全ての悪を倒すため…！」

その声は淡々としていたが、どこか決意のようなものが節々から滲み出ている。

シルエットの首に巻かれた真紅のマフラーが、桜を散らして風に靡く。

『グギュ オモ？！』

驚愕し、瞳を見開かせる化け物。

人の形をしたシルエットは… 緑色の全身と真っ赤な複眼もつ、戦士であつた。戦士はゆっくりと右腕を振り上げ、左手を腰のベルトの横に添えた。

「天は、人の上に人を作った！」

そしてステンドグラス越しに天を見上げ終えると、その戦士は赤い複眼で化け物を威嚇する。

「それが私だ！仮面ライダー ローズ！」

凜々しい叫び声が教会に響く。

緑色の戦士の赤い瞳が輝き、その左手でベルトの横部分に装備されたグリップを引き抜く。

「イバラライザー！」

引き抜かれたグリップからは、荊のよつな鞭が現れ、無数の鋭い棘が教会の床を這つた。

『ググツ！－ゴロスツ！－』

化け物は両腕を振り上げて走り出した。

しかし、その動きは緑色の戦士に既に見切られていた。

「でえいッ！－！」

一閃－

緑の一撃が、闇を裂く。

碎け散る化け物、そして謎の戦士はイバラライザーを腰のベルトに再び戻し、教会の外へと歩き出した。

「あつ…あなたは…」

驚くシスターが、謎の戦士を追いかけようとする。

「…」

謎の戦士は、少しだけ振り返り、再び歩き出した。

桜が舞い散る、敷地内を…

今、マスクド女学院を舞台に仮面ライダー ローズの戦いが始まる

！－

第一部 お嬢様がみてる（後書き）

この作品の世界観は… そつ

アレです、すみません。

本当にすみません。

でも畠わん、仮面ライダーローズをよひしきね。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2828b/>

仮面ライダー ローズ

2010年10月10日22時44分発行